学校評価

＜報告＞

令和４年度　総括

令和５年度　目標・計画

松江西高等学校

目次

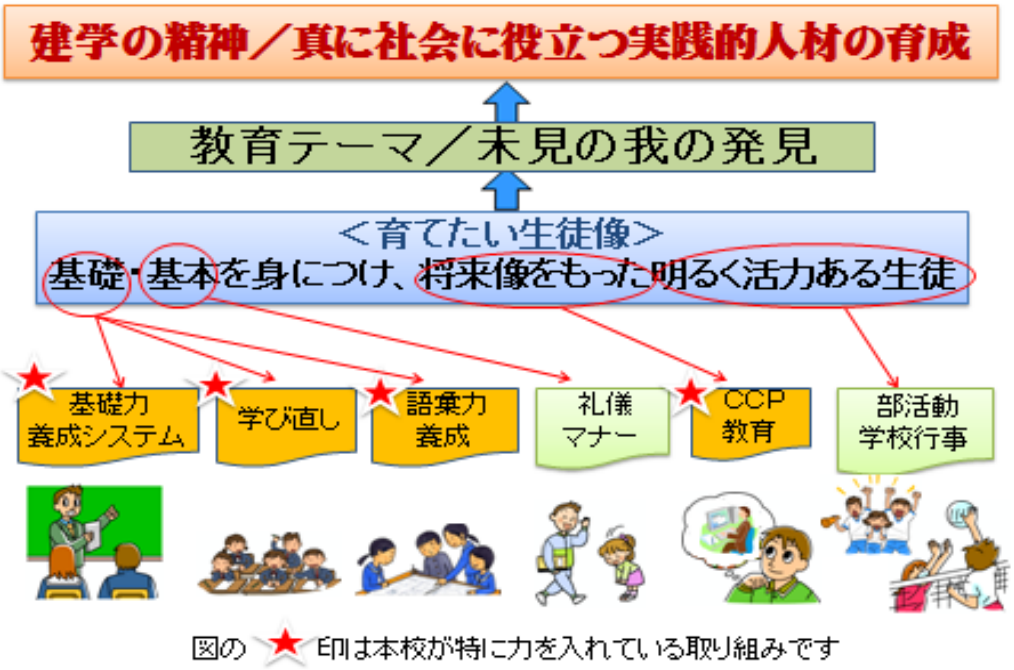
目次　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

令和４年度＜総括＞　・・・・・・・・・・・・2～15

学校評価（重点課題・主眼を置いた取組・継続課題）・・　4～ 8
分掌部評価（年間目標の点検・評価）・・・・・・・・・・　9～12
担任評価（担任振返シートによる点検・評価）・・・・・13～15

令和５年度＜目標・計画＞・・・・・・・・・16～29

学校評価（重点課題・徹底したい取り組み等）・・・・・18～21
分掌部評価（年間目標・計画）・・・・・・・・・・・・・22～25
担任評価（クラス努力目標・振返シート）・・・・・・・26～29
生徒評価（チェックシート）・・・・・・・・・・・・・・30



図の ★ 印は本校が特に力を入れている取り組みです

令和４年度

松江西高等学校

自己点検・自己評価（ＰＤＣＡ）

＜目標・計画＞

・学校評価（重点課題・主眼を置いた取り組み等）

・分掌部評価（分掌部評価表）

・学級評価（担任振返シート）

・生徒自己評価（生徒指導部）

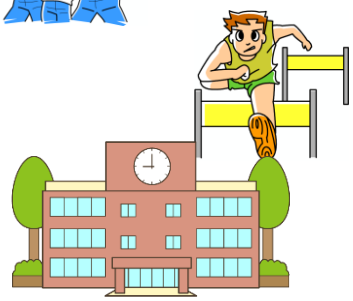
令和４年度　学校方針

松江西高等学校　重点目標

重点課題

（令和５年度実施に向けて）

目の前にいる生徒に即した魅力あるカリキュラム・学科・コースの見直し



徹底したい取り組み

①育てたい生徒像／基礎・基本を身につけ、将来像をもった明るく活力ある生徒

■学習面（私は分かる）
- 高校生のための学びの基礎診断
- 基礎力養成、学び直し、語彙力養成（Literas 論理言語力検定）
- 新しい授業のカタチ（2022 新指導要領実施準備）
  アクティブラーニング、反転授業等の実践とその評価
  ネット学習動画（スタディーサプリ等の活用）

■生活面（私は守る）
- 慈にして厳なる指導
- いじめ防止対策（未然防止・早期発見とその対応）
- 基本的生活習慣（時間・挨拶・マナー・規則順守）

■ＣＣＰ教育（私は決める）
- 総合探求学習・ＬＨＲを活用して２年までに進路の方向性を決定する
- 将来像を持たせることで、日々の学習のモチベーション向上につなげる

■部活動、行事の重要性（私は参加する）
- 部活動、行事を通して明るさと活力を身につける

②その他
- 地方創生への取り組み／外部（行政・企業・大学・専門学校など）との連携強化
- 支援生徒への取り組み／特別支援、不登校支援・外国籍生徒支援
- 学校評価を通して学校運営の改善に努める

私学の原理・原則

①経営基盤（生徒数の確保と維持）の確立の上に理想があり、教育がある！

②生徒を大切にし、面倒見のいい私学は生き残る！

③魅力、特色が形骸化し、工夫のない私学は生き残れない！

令和４年度　松江西高等学校　学校評価
＜重要課題＞

PLAN		DO	CHECK	ACTION
重点目標	重点項目	具体的な取り組み	達成度判定基準	分析（成果と課題）及び改善策
３つの生徒像	～どんな生徒を求めているか？～ ①これまでの義務教育を振り返り、これからの高校生活を充実させるための目標を持っている生徒 ②本校の教育テーマである「未見の我の発見」に向けて努力する生徒	①、②については入試説明会、中学校訪問等で伝える。特に①については専願生の面接項目に入れる。	Ａ　Ⓑ　Ｃ　Ｄ	教員説明会(9 月)、生徒・保護者説明会(11 月)ともに、丁寧に実施できた。専願面接時に学び直しをあげる生徒が多く、定着していることを感じている。部活動目的の生徒も多い。(校長)
	～どんな生徒を育てたいか？～ ・育てたい生徒像である「基礎・基本を見につけ、将来像を持った明るく活力ある生徒」を育てる	基礎学力、基本的生活習慣、キャリア教育、部活動・学校行事を通して、社会人としての基盤をつくる。また学期ごとにアンケートを実施し、定着度を確認する。	Ａ　Ⓑ　Ｃ　Ｄ	将来的に社会に出ていく上で必要な要素として、育てたい生徒像の実践があると思っている。本校の取り組みを、一人ひとりの生徒がより自分自身で考え、主体的に当たれるように意識付けることで、自己実現につなげたい。(校長)
	～どんな社会人になってほしいか？～ ・ローカルマインドを持った地域社会に貢献できる生徒 （ローカルマインドとは、地域を知り、地域を愛する心のこと）	約七割の生徒が地元に残る現状を踏まえ、地域と連携、協力して地方創生に協働する人材を育てる。	Ａ　Ⓑ　Ｃ　Ｄ	コロナ禍３年目の状況もあり、進路ガイダンス等対面での実施が増えた年となった。次年度以降関係各所と連携を図り、活動の幅を拡げたい。(校長)
課題	魅力あるカリキュラム・学科・コースの見直し	目の前にいる生徒に即した魅力あるカリキュラム・学科・コースを構築する。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ⓓ	教育課程の変更について、いろいろと衝突があり止まっている。対話を図り進めていければと思う。(校長)

＜徹底したい取り組み＞

PLAN			DO	CHECK	ACTION
重点目標	重点項目		具体的な取り組み	達成度判定基準	分析（成果と課題）及び改善策
育てたい生徒像／基礎・基本を身につけ、将来像をもった明るく活力ある生徒	基礎学力養成	高校生のための「学びの基礎診断」	年間１回（９月）実施することになった。本校にとって大きな指標にしたい。	Ａ　Ⓑ　Ｃ　Ｄ	実施はできたが、分析までできなかった。分析まで行い、授業などに活かせるようにしたい。(和田)
		基礎力養成対策	Ａ～Ｄ層のうちＤ層の減少を目標とする	Ａ　Ｂ　Ⓒ　Ｄ	Ｄ層が減る回もあったが、継続的ではなかった。生徒に目標を持たせるような取り組みをしたい。(和田)
		学び直し	ベネッセ教材を活用し中学校時の積み残しを学び直し、高校教育課程へつなげる。	Ａ　Ⓑ　Ｃ　Ｄ	1 年生 1 学期の総合の時間も活用して学習することができた。今後も学校内での学習の時間を確保したい。(和田)
		語彙力養成	本校の生徒に合った題材を準備し、楽しく語彙力が身に付くように工夫し、Literas 論理言語力検定の合格者を増やす。	Ａ　Ｂ　Ⓒ　Ｄ	昨年度と比較し、3 級合格者は微増(58→59) した一方、2 級合格者は微減 (19→13) であった。来年度は過去問に取り組むタイミングやリスニング問題の練習も織り交ぜていきたい。(広瀬)

	新しい授業のかたち	アクティブラーニング等による「生徒参加型授業」の取り組み	「知識・技能」の習得からその活用へ重点をシフトし、生徒を主体とする授業の形成に努める。	A　B　Ⓒ　D	効果的なアクティブラーニングのためには基盤となる基礎知識が必要であり、まだその段階が難しい生徒も多い。何時間かに１回などポイントで用いていくことが良いと考える。(和田)
	ＩＣＴ等の活用	基礎学力基盤養成	ベネッセのクラッシー学習サポート（動画学習）の活用による基礎学力の定着に努める。	A　Ⓑ　C　D	基礎力テスト前の課題として学習動画を活用できた。課題をきっかけに生徒が自発的に取り組めるようにしたい。(和田)
		進学するための学力養成	リクルートのスタディーサプリの活用による実力養成に努める。	A　B　Ⓒ　D	課題の配信や確認が担任任せになってしまった。配信の内容について話し合う機会を持てなかった。(広瀬)
		就職するための学力養成	ＳＰＩの活用による就職試験に合格できる学力の養成に努める。	A　Ⓑ　C　D	2･3 年生を対象に定期的な校内試験を計画・実施。その結果をもとにして、3 年次の校内選考の資料にしている。(加藤)
	検定その他	朝読書の推進	8:30～8:40 朝読書(月､金)を実施する。	A　B　C　Ⓓ	時間の確保が難しかった。(柏尾)
		校内漢字テスト	年６回の漢字テスト、３回の漢字検定を実施する。	A　Ⓑ　C　D	平均１００点の人数が前年度よりも増え、取り組む姿勢が学年全体で良くなったと感じた。(小澤)
		各種検定資格取得	＜総合ビジネス科＞ 簿記、情報、ワープロ、電卓､介護職員初任者研修(旧ホームヘルパー２級）等の資格取得に努める。	A　Ⓑ　C　D	全商簿記 3 級 33 名、2 級 8 名、1 級 2 名 全商ビジネス計算 3 級 35 名、2 級 34 名、1 級 18 名 全商ビジネス文書 3 級 31 名、2 級 6 名、1 級 1 名 全商情報処理 3 級 23 名、2 級 5 名、1 級 1 名 全商商業経済 3 級 18 名、2 級 5 名、1 級 4 名 介護職員初任者研修 12 名 (加納)
			＜普通科＞ 漢検･英検･日本語検定･論理言語力検定等の資格取得に努める。	A　Ⓑ　C　D	全商英検　3 級 7 名 実用英検　3 級 8 名、2 級 3 名 実用は例年より受験者数が少なかったが、2 級 3 名は健闘した。(須谷) 漢字検定 2 級 3 名、準 2 級 8 名、3 級 21 名の合格者を出すことができた。(小澤) Literas 論理言語力検定 3 級合格者 59 名（1･2 年） 2 級合格者 13 名（1･2 年）(広瀬) 日本語検定　本年度実施せず（日野） 数学検定 受験の機会を 2 回準備し、そのうち 1 回で 3 名が受験した。2 名が合格、1 名が 1 次合格で、結果は良好であった。(和田)
	基本的生活習慣と生徒指導	社会性の育成	社会規範を示し、将来社会人として自立するための基本を身につけさせる。校内外パトロールを通して本校生徒の実態を把握し、正しい方向に導く。	A　B　C　Ⓓ	しかるべき社会規範を示せたかどうかも自信がない状態。また生徒の実態は把握できたが、粘り強く指導することができなかった。(杉田)
		服装・頭髪	月１回全校一斉検査を実施し､改善まで徹底指導する。	A　B　C　Ⓓ	「忘れた」｢直してない｣という発言をした生徒が特に不利益を被らない流れができてしまった。しかし生徒に任せて（信じて）強い指導はしないということであれば私も生徒指導も根本的な変更をしていかなければならない。(杉田)

		挨拶	全職員による日頃の地道な指導が大切。	A　B　C　Ⓓ	挨拶運動も行わず、生徒の自主性に任せてしまった。（杉田）
		マナー	根負けしない教職員の指導が大切。	A　B　Ⓒ　D	完全に生徒に負けてしまっている状態だと考えます。（杉田）
		いじめ問題	いじめは未然防止に尽きる。日頃からの全職員による観察が肝要である。いじめは絶対許さない姿勢を日々示す。	A　B　Ⓒ　D	クラスや部活動に関わらず、無数に広がる人間関係の中でいじめ問題があると思うと対策にも限界を感じる。重大な事案は今のところ聞いていないが、心ある先生方が粘り強く生徒の話を聞いて頂いて今があると思います。（杉田）
	将来像	探究・キャリア教育	探究活動に取り組むことで、自分自身をより理解し、学びに向かう力を育む。	A　Ⓑ　C　D	＜１年＞ 生徒が自ら課題を設定して情報を収集・分析し、とても興味深い探究発表ができた。（柏尾）
				A　Ⓑ　C　D	＜２年＞ 「地域」をキーワードに探究活動に取り組んだ。昨年よりも少しレベルが上がっていた。（田中幹）
				A　B　C　Ⓓ	＜３年＞ 3 年次は実施せず（日野）
		進路ガイダンス	進学に関するガイダンス	A　Ⓑ　C　D	4 月／進路ガイダンス(3 年) 12 月／進学ガイダンス(1･2 年) 1 月／進学ガイダンス(2 年) 3 月／進学ガイダンス(1･2 年) 3 年次の 4 月に三者面談を実施するにあたり、2 年次からガイダンスを多く計画した。コロナ禍により、延期したものも時期をずらして対応した。（加藤）
			就職に関するガイダンス	A　Ⓑ　C　D	4 月／進路ガイダンス(3 年) 9 月／就職受験出発式(3 年) 2 月／就職内定者研修(3 年) 3 月／企業ガイダンス(2 年) 進学と同様に 2 学期のガイダンスがコロナ禍により延期とした。今後も就職を考える生徒が仕事(企業)を知る機会をより多くしたいと考える。(加藤)
		職場見学、職場体験等の活用による離職対策	安易な職業選択による離職率は増加の傾向にある。職場見学、職場実習の機会を増やすなど、離職率減少対策に努める。	A　Ⓑ　C　D	2 年生 3 月の企業ガイダンスでは地元企業を知る機会を設けており、最終学年を迎える前から卒業後の進路に向けた取り組みをしている。(加藤)
	明るく活力	行事を大切にする	師弟が結束して行事に取り組み、行事を通してクラス、学年の帰属意識を高める。	A　Ⓑ　C　D	文化祭について今年度はメッセにて石見神楽の鑑賞を行った。新たな試みの中から、新しい発見もあり今後に活かせるものとなった。(坂田教頭)
		部活動に入る／入部率向上	入部率７０%をめざす。	A　B　Ⓒ　D	入部率は約４３%と目標値に遠く及ばなかった。特待生の増加により部活動活性化すると共に、入部する事の魅力を伝えていくことが大切と考えられる(坂田教頭)
		特待生の積極的な勧誘で学校活性化に努める。	部活動をけん引する特待生の確保に専念する。 （目標３０名）	Ⓐ　B　C　D	令和５年度入学生について、特待生は３４名と目標値を上回った。引き続き実効的な生徒募集について部活動顧問者会議で検討していきたい。（坂田教頭）

＜継続して取り組む課題＞

PLAN			DO	CHECK	ACTION
重点目標	重点項目		具体的な取り組み	達成度判定基準	分析（成果と課題）及び改善策
①生徒数の確保	入学生定員１８０名確保		本校の取り組み・魅力を積極的にＰＲ。中学校訪問回数を増やす。	Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ	入学生　名。パンフレットや学校紹介PV、体験入学、部活動体験を通して学校の良さをPRした。部活動の勧誘も功を奏し、希望者が倍増した。（松浦）
	志願者数７００名		多様化する生徒に対応した本校の受験型と特待制度の浸透に努める。	Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ	志願者総数 618 名。今年も変わらず 6 会場で行い、本校会場は受験者が昨年より増えた。各中学校から分試験場の受験のしやすさを評価されている。（松浦）
	マスコミ・メディアの活用		本校の行事等をマスコミに積極的に報道依頼する。	Ａ Ｂ Ｃ Ⓓ	マスコミ等への積極的な依頼はできていない。（松浦）
	効果的なイベント		本校に興味・関心が向くようなイベントを工夫する。	Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ	授業体験を２回、部活動体験を４回実施した。学校紹介PVは学校の良さを知るための一定の評価を得ている。（松浦）
	入試の改善		改善すべき点、新しく導入すべき点等を検討する。	Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ	推薦入試では、特別活動推薦、ポートフォリオ推薦を廃止し、スリム化した。（松浦）
	塾対応		塾への訪問回数を増やし、本校のPRに努める。	Ａ Ｂ Ｃ Ⓓ	依頼のあった塾に対しては、過去問題とポスターを配布したが、積極的なPRは行っていない。（松浦）
②生徒数の維持	退学１０名、転出１０名、計２０名までに留める		日頃の出欠状況に注視し、安易な退学、転出の予防に努める。	Ａ Ｂ Ⓒ Ｄ	昨年度より４名の減ではあるが、退学１９名、転出１０名と目標を９名上回った。単位不認定による原級留置がそれぞれ３名含まれる。また、今年度は納入金未納の為の退学が１名出た。次年度は減少に努めたい。（校長）
③その他	支援生徒への対応	不登校の問題	中学校、支援組織等からの情報を収集し、保護者との協力のもと不登校の改善に努める。	Ａ Ｂ Ⓒ Ｄ	今年度は人員減のため学習室の活用、個別授業の実施ができなかった。不登校の背景として、家庭環境の複雑さ、本人が抱えている精神的疾患や発達障がいなどの要因が大きくなかなか教室復帰が難しい。（小田原）
		特別支援生徒	実態をまず把握し、中学校、支援団体等からの助言を得ながら、連携して合理的配慮に努める。	Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ	今年度も中学校・保護者・生徒を交えて移行支援会議を実施した。特別支援学校、主治医から助言を得ながら進めることができた。（小田原）
		外国籍生徒学習支援	同時通訳機や日本語指導員等を活用し、言葉の壁を軽減したい。学習評価も合理的配慮が必要な場合はその都度検討する。	Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ	入学前の中学校訪問、学校説明会や三者面談での通訳の派遣依頼は例年通り。今年度は 3 名の外国籍生徒が卒業を迎えることができた。（広瀬）
		合理的配慮	保護者、担任等からの申し出を受け、その都度、検討し、生徒の困り感を軽減する。	Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ	生徒の多様性に対応しきれていない場面がある。限られた資源の中で、できうる配慮を探っていくことが大切であり情報共有も行わなければならない。（坂田教頭）

	地方創生	ふるさと教育の実践	ふるさとを知り、ふるさとを愛する人材の育成に努める。	A　B　Ⓒ　D	探求の中で取り組む生徒がいる一方、学校の仕掛けは今一つ。産官学での動きが少しでもできればと思う。（校長）
		地域に貢献する人材の育成	地域に根差し、地域を支える人材の育成に努める。	A　Ⓑ　C　D	表立った取り組みはできていないが、結果として就職者希望者の大半が地元就職している点は評価できる。（校長）
		自治会等の連携活動	自治会との連携を密にし、お互いに助け合う関係を築きたい。	A　B　C　Ⓓ	コロナ禍もあり、学園祭の縮小が３年続く状況。次年度に向けてはグラウンドの開放や行事の参加など以前までとは言わないまでも計画したい。（校長）
	学校評価の推進と学校運営の改善	学校評価	学校の年間重点目標と戦略をＰＤＣＡを通して、全体評価する。	A　Ⓑ　C　D	生徒がより良い教育を享受できるよう、その教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善、発展を目指したい。（客野教頭）
		分掌部評価表	各学期末、年度末に自己点検・自己評価を実施する。	A　Ⓑ　C　D	より効率的な学校運営と確実な業務遂行につなげたい。（客野教頭）
		担任振返りシート	各学期末、年度末に自己点検・自己評価を実施する。	A　Ⓑ　C　D	1 年間のクラスの生徒との関わりで、今後も指導を継続させたい内容などを明らかにし、次の学年につなげたい。（客野教頭）
		クラス努力目標	努力目標をクラスに掲示し、振返りシートで反省、改善に努める。	A　Ⓑ　C　D	折に触れ、自分たちの言動について、振り返るものとしていきたい。（客野教頭）
		生徒自己点検	各学期末、年度末に自己点検・自己評価を実施する。	A　B　C　Ⓓ	生徒指導の計画により、今年度も実施せず。（客野教頭）
		学習指導計画	年度末に自己点検・自己評価を実施する。	A　B　C　Ⓓ	様々な事情により実施できなかった。（和田）
		授業評価	Classi によるアンケート調査を実施する。	A　Ⓑ　C　D	3 学期にアンケートツールを Classi から Google フォームに変更したことで、生徒も教員も負担が減ったと感じる。（和田）

＜集計＞

評価項目（５１）	Ａ／１	Ｂ／２９	Ｃ／１０	Ｄ／１１

令和４年度　松江西高等学校分掌部年間目標と計画

１．教育理念

（１）本校の使命（ミッション）

建学の精神である「真に社会に役立つ実践的人材の育成」を使命とする。基礎・基本を身につけ、人格の形成に主眼を置いた教育実践を通して、地域に根差し、地域の期待に応える学校づくりを推進する。

（２）使命の追求を通して実現しようとする本校の生徒像（ビジョン）

本校の育てたい生徒像である「基礎・基本を身につけ、将来像を持った明るく活力ある生徒」具現化のための重要ポイント

１．基礎力養成補習、学び直し、語彙力養成を通して基礎学力を養成させる
２．平素の学校生活を通して正しい服装と礼儀・挨拶を習得させる
３．ＣＣＰ教育、インターンシップを通して将来像を持たせる
４．部活動、学校行事を通して明るさと活力を身につけさせる

２．分掌部年間目標・計画・評価　　評価　１　よくできなかった／　２　まずまずだった／　３　大変よくできた

分掌	担当	年間重点目標		目標達成のための計画	評価（1学期）	評価（2学期）	評価（3学期）	評価（学年）
総務部	入試課	①受験者数・入学者数の確	①体験入学参加者 200 名の確保（昨年 170 名）	・松江西高タイムス・学校案内発行 ・学校紹介ビデオ・パワーポイント作成 ・中学校における進路説明会実施 ・中学校教員対象入試説明会実施 ・中学生・保護者対象入試説明会の実施		1		1
			②中学生・保護者対象入試説明会参加者 450 名の確保(昨年 395 名)			1		1
			③受験者数 750 名の確保(昨年 659 名)				1	1
			④入学者 180 名の確保(昨年 149 名)				1	1
	総務課	②円滑な学校運営		・年間行事計画作成・調整 ・職員会議企画・運営、会議録の作成・資料保管 ・学校要覧、職員名簿・緊急連絡網・身分証明書等の作成 ・100 周年資料の収集・整理・保管	3	3	3	3
	式典総務入試課			・入学式、卒業式、始・終業式等の企画・実施	3	3	3	3
				・入学試験の企画・実施、入試関係事務処理	3	3	3	3
				・専願合格者入学前指導、新入生一日入学企画・実施			3	3
	厚生課			・各種育英資金募集についての連絡・相談 ・学校生協関係の連絡・事務 ・慶弔に関する庶務	3	3	3	3
	施設課	③施設・設備の管理・保全		・校舎・施設、机・椅子等の破損調査・整備 ・校舎内外の環境整備・美化	2	2	2	2
	総務課施設課	④防災体制の確立		・防災組織の整備、研修・訓練の実施と検証 ・防災教育の企画・実施 ・緊急時一斉メール配信システムの整備・管理 ・防災設備の点検・整備	3	2	2	2
	総務課	⑤学校広報の推進		・西高だより（年2回）・「がんばれ西高！」（随時）発行 ・学校ホームページ更新	3	3	3	3

教務部	教務課	①授業の管理、授業時数の確保		・特定の教員に負担が掛かり過ぎないような授業変更基本ルールの共有	2	2	2	2
				・時間短縮等で学校行事等とのバランスをとる。	3	3	3	3
		②ポートフォリオの確実な蓄積（提出率90%）		・各学期末のみ用紙で実施し、保管する。	3	2	2	2
		③新課程への対応（観点別評価システム作成・分析）		・観点別評価システムへの意見を年度末に集約する。	2	2	2	2
	学習指導課	④基礎学力の向上(3 年生で D3 層 30 名以下）		・目標設定・事前学習（補習）・振り返りのサイクルができるように働きかける	2	2	2	2
		⑤Literas の検定合格者の増加 (3 級 120 名、2 級 25 名以上）		・事前課題の活用計画を明確にする。		2		2
	研修課	⑥若手教員の不安軽減		・公開授業などの相談や意見交換の機会を設定		2		2
		⑦学校全体での研修会の実施		・目的を明確にした研修会の計画	2	1	1	1
	授業改善課	⑧各学期の授業アンケートの実施 (提出率 90%以上）		・Classi による授業アンケートの配信をする。	3	2	3	2
		⑨総合の時間の有効活用		・各学年で具体的なカリキュラム計画を作成する。	3	2	2	2
				・定期的な学年部会などで計画の意図を共有する。	1	1	1	1
	図書課	⑩読書週間の有効活用		・教室用図書の準備、LHR で読み聞かせ等を実施	2	2	1	2
生徒指導部	生徒指導課	①あいさつの充実	生徒が学校の状況を知り、起きている問題を当事者意識でとらえさせる取組み	・学期はじめに挨拶運動を実施する。（生徒会と各部活動）	1	1	1	1
		②身だしなみを整える		・学年部と連携する。服装、頭髪検査の実施（月 1 回） ・「生徒カード」の有効活用　スラックス導入への対応 ・変形させにくいスカートの検討→来年度の導入を目指す	1	1	1	1
		③時間を守る		・「ノーチャイム運動」と遅刻指導（遅刻率を3%以下に） ・出欠黒板の「見える化」→生徒が記入へ	1	1	1	1
		④掃除の励行		・保健部や生徒会と連携する（新たな委員会の設置を検討）	1	1	1	1
		⑤校則（各種規定・ルール）の見直し		・校内での議論を推進し、一部来年度の改正を目指す	2	2	1	2
		⑥生徒指導体制の見直しと連携強化		・処分件数を昨年度比で５０%減少させる。（昨年 12 件）	1	1	2	1
	交通指導課	⑦法令順守の精神を養う		・地域や警察と情報共有を密にする。　運転免許取得指導	1	1	1	1
		⑧交通事故を防ぎ、生徒の命を守る		・交通事故をゼロに　街頭指導の実施（春・秋・長期休み）	1	1	2	1
		⑨自転車のマナーアップと盗難防止		・啓発ポスターの掲示　施錠指導とステッカー貼付指導	1	1	1	1
	生徒会課	⑩学園祭の充実		・企画・運営・準備段階で生徒指導部が関わる。		2		2
		⑪委員会活動の見直し		・委員会の精査と活動内容を再考し、生徒総会に諮る。	1	1	1	1
	人権同和課	⑫人権尊重と差別のない学校作り		・教職員研修の実施　校外での講演会参加の呼びかけ	1	1	1	1
		⑬生徒相互の人間関係の構築		・アンケート QU の実施　各学年部・担任と連携を強化	2	2	2	2

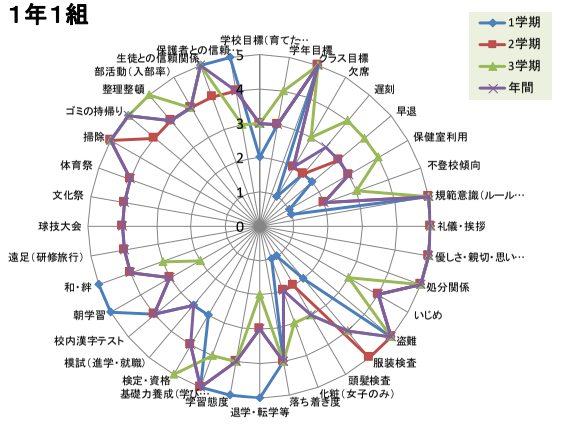
進路指導部	職業指導課	①生徒の進路保障 ・学校斡旋による地元就職への内定率の向上を目指す。 （就職ミスマッチの減少） （学校斡旋内定率 100%） ・公務員希望者への対応 ・縁故就職者への支援 （ビジネスマナーの定着）	・面談を重ねることにより、それぞれの適性に応じた指導を目指す。 ・基本的生活習慣や学力を身につける ・遅刻・欠席の多い生徒や意欲のない生徒への対応 ・ハローワークや関係諸機関との連携を強化 ・早期離職を防ぐためにジョブフェアや応募前見学等を活用する。 ・夏季補習や採用試験に対応できる対策をとる。（作文・SPI検査など）		2	2	2
		②社会人としての素養を高める ・キャリア教育の実施。 ・社会人基礎力を育てる。 「遅刻・欠席をしない」 「挨拶をする」 「コミュニケーション力」	・校内での挨拶・言葉の使い方・服装頭髪 ・外部講師による講話やマナー指導実施 ・面接指導を通して、社会人としてのマナーを身につけさせる。また、自分の意見を相手にきちんと伝えられるようにする。	2	2	2	2
		③応募前見学、企業ガイダンスの実施 ・県、市、ハローワークと連携	・求人票だけでなく、ガイダンス・職場体験を通して、実際の仕事や職場の状況を知り、職場選択の取り組みを促す。 ・就職先の新規開拓をする。		2	2	2
		④インターンシップの実施 ・2 年生の 10 月～11 月実施	・インターンシップの実施により、上記にある社会人としての素養を高め、「卒業後は社会人になる」という意識を学年全体・学校全体で持つようにする。				
	進学指導課	⑤総合ビジネス科で取得できる上級資格を利用した入試での上級（国公立大学も視野に入れた）学校への進学 （1名以上）	・本人の希望に合わせて、上級資格を利用できる入試がある上級学校を紹介する。 ・入試方法に合わせた個別の受験対策を早期より行う。			1	1
		⑥進学実績の向上・拡大 ・国公立大学の合格者数を昨年以上にする。（昨年0名→2名以上） ・大学・短大の合格者割合を増やす。 （昨年25．3%→30%へ）	・進学希望者対象補習を一般選抜も視野に入れて早期より計画的に行う。 ・総合型・学校推薦選抜に向けた小論文対策として 5 月に添削模試を行う。 ・大学、短大との連携の強化・拡大を図る。 ・模試を有効に活用（特に、復習と学習方法の検討）する。			3	3
		⑦スタディサプリの有効活用 ・特別進学コースにおいて、家庭学習を定着させて受験の基盤となる学力を身につけさせる。 （平日1年1h、2年2h、3年3h 休日1年3h、2年4h、3年5h ※3年部活動生徒は－1h）	・週末課題→週明けチェックテスト→復習の流れで家庭学習のきっかけを作る。 ・到達度テストの結果から個別の学習計画を各自で作成する。 ・学びの振り返りをすることで学習に対するメタ認知をさせる。 ・各学期に 1 回家庭学習時間調査を実施し、反省や改善の材料とする。		2	2	2
		⑧Classi のポートフォリオ機能の活用 ・新入試に対応できるようにポートフォリオを記録する。 （提出率100%になるように）	・年間計画を示し、担当者からポートフォリオ課題を配信する。 ・大学入試改革によるポートフォリオの必要性を説明する機会を作る。		2	1	2
保健部	保健課	①環境美化の推進	・ゴミ処理の円滑化 ・清掃活動	2	3	3	3
		②健康管理の徹底	・生活改善(食事・睡眠・スマホ)に向けた指導 ・健康観察、調査票などからの情報収集により、心身の問題の早期発見、早期対応を図る。	2	2	2	2
		③各諸問題に関わる研修	・時代に対応した各種研修会(情報提供)を実施	1	1	1	1
		④保健部に関する各種統計	・保健室利用者及び疾病の種類の把握 ・利用者数の把握、各検査健診結果統計	3	4	4	4
学年部	1年部	①基本的生活習慣の確立 ・遅刻率を 5%以下に ・出席率を 95%以上に ・皆勤者を 30 名以上に	・8:40 には登校し、朝学習（朝読書）の時間を活用する。 ・遅刻をする場合は必ず保護者から学校に連絡する。（通院する場合も事前に連絡） ・欠席が多いと進路決定に大きく影響し、周囲にも迷惑をかけていることを理解させる。 ・生徒指導部の遅刻確認書（保護者確認）や遅刻防止の自己分析をさせる。	3	2	2	2

		②基礎学力の向上と学習習慣の涵養 ・漢字テスト　平均 70 点以上 ・各種検定試験（3 級以上）への挑戦	・新聞、本を読むことを勧める。 ・進路先に提出する書類に記入できるような各種検定試験の 3 級以上の合格を目指し、学習習慣を身につけさせる。 ・合格することで自信をつけさせる。	2	2	2	2
		③150 名全員の進級 ・年度末の追試対象者数を 15 名以下に	・授業に集中させる。 ・普段の授業を大切にさせ、保健室の利用を少なくする。	2	2	2	2
		④将来のビジョン化 ・進路選択能力の育成 ・コミュニケーション動力の向上 ・マナーや言葉遣いの習慣 ・スケジュール管理	・探究学習の授業を充実させる。 ・面談はもちろんのこと、普段の生徒との会話からもコミュニケーション能力の向上を目指し、進路選択のことが意識できるような仕掛けをしていく。 ・進路ガイダンスや講演会等で外部講師の方から刺激を与えてもらい、生徒が将来のことを考える機会を増やす。 ・社会性を身につける。 ・生徒手帳を活用し、スケジュール管理を身につけさせる。	2	2	2	2
	2年部	①基本的生活習慣の確立 (1)遅刻欠席をしない(2)礼儀を身につける(挨拶・言葉遣い・返事)(3)時間を守る ・出席率を 97%以上に(昨年 94%) ・遅刻率を 2%以下に(昨年度 3.3%) ・転退学者を 0 名に(昨年度 20 名) ・皆勤者を 30 名以上に(昨年度 20 名)	・基本的生活習慣を身につけることの大切さを理解させる。 ・始業のチャイムとともに行動させる。 ・保護者への電話連絡や家庭訪問を適時行う。	2	2	2	2
		②基礎学力の向上・定着 (1)授業を受ける体制を整える(2)テストに全力を尽くす(3)各種検定等の資格を取得する ・学期間奨学生の推薦者を 10 名以上に ・年度末の追試対象者を 10 名以下に ・漢字テスト平均点 70 点以上 ・各種検定試験 3 級以上合格	・この 1 年間の評定が 1 年後の進路決定に影響するということを理解させる。 ・普段の授業を大切にさせ、授業に集中させる。 ・各種検定試験の 3 級以上の合格を目指し、学習意欲を高める。	2	2	2	2
		③未見の我の発見 (1)部活動・学校行事への積極的な参加 (2)相手を尊重した行動や言動をとり、対人関係を円滑に築く ・部活動入部率 55%をキープ	・部活動や学校行事を通じて協調性を身につけ、達成感や自己肯定感を味合わせる。	2	2	2	2
		④進路のビジョン化 (1)進路選択能力の育成 (2)探究学習・小論文学習の充実		2	2	2	2
	3年部	①何事にも全力で取り組む姿勢(本気を出す) ・学年末評定点のアップ 　ビ科 5.5⇒5.6 以上 　普総合 5.4⇒5.5 以上 　普特進 5.5⇒5.7 以上 ・出席率の向上　94.5%⇒95.0%以上 ・遅刻率の減少　2.8%⇒2.0% ・転退学率の減少　1.7%⇒0% ・皆勤者の増加　28 名⇒30 名以上	・始業のチャイム以前に行動させ、授業に集中させる。 ・進路の推薦条件は評定が高い方が有利であることを認識させ、学習への意欲を高める。 ・担任と教科担当とのコミュニケーションを大切にする。 ・保護者への電話連絡や家庭訪問を適時行う	2	2	2	2
		②学校行事への積極的参加(仲間を大切に) ・部活動入部率を 55%以上キープ	・担任の個性を生かしたクラスづくりをするとともに、いじめや無視など、日々の生徒の変化に迅速に対応する。 ・生徒の情報を学年部で共有する。	2	2	2	2
		③希望の進路実現(輝く未来のために)	・進路実現に向けて全力で取り組む姿勢を身につけさせる。	2	3	2	2
		④卒業へ向けて(最終目標の達成)	・卒業に向けて全力で取り組む姿勢を身につけさせる。	2	2	2	2

令和4年度　担任振り返りシート集計表（1年生）

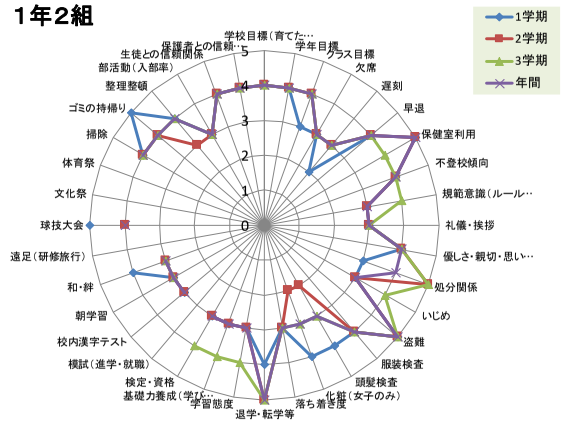
クラス目標	根気 1つ1つのことを粘り強く 継続して行う気力をつけよう！

1年1組



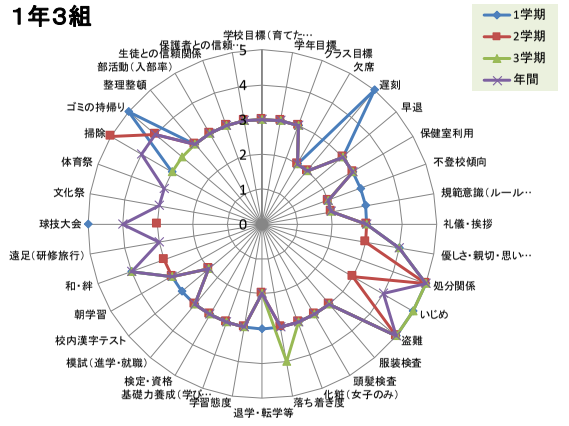
クラス目標	「全員進級～貯金づくり～」

1年2組



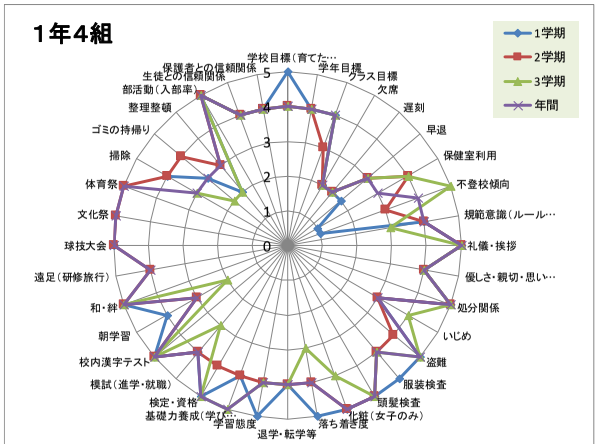
クラス目標	挑戦 ちょっとやってみる(一歩踏み出す勇気)。 みんな何かをすることは不安である。

1年3組



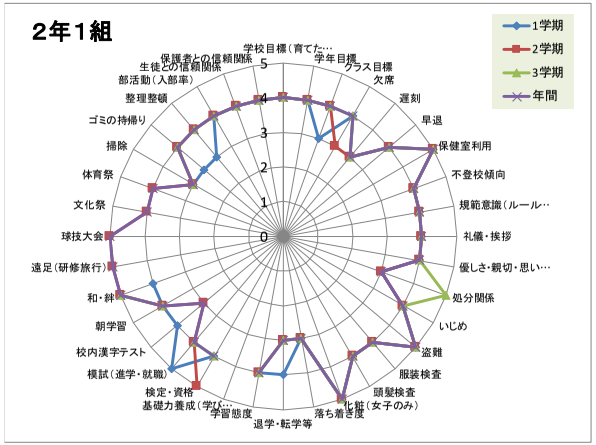
クラス目標	習慣をつける ● 毎日の生活習慣 ● 敬語、挨拶の習慣 ● 家庭学習の習慣

1年4組

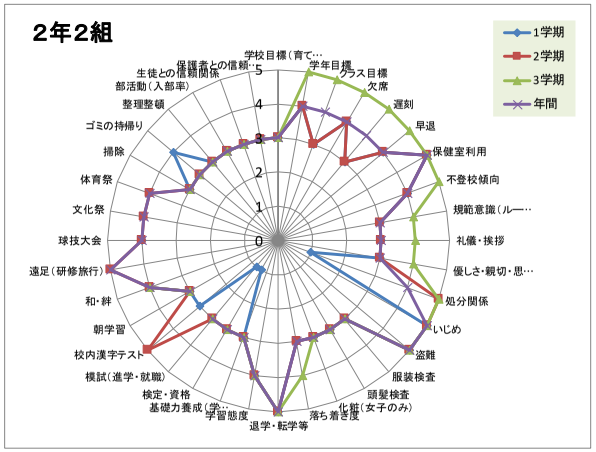


令和4年度 担任振り返りシート集計表（2年生）

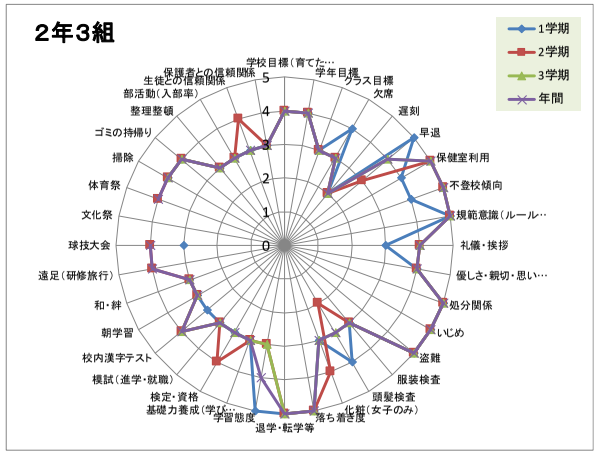
クラス目標	Reason 理由



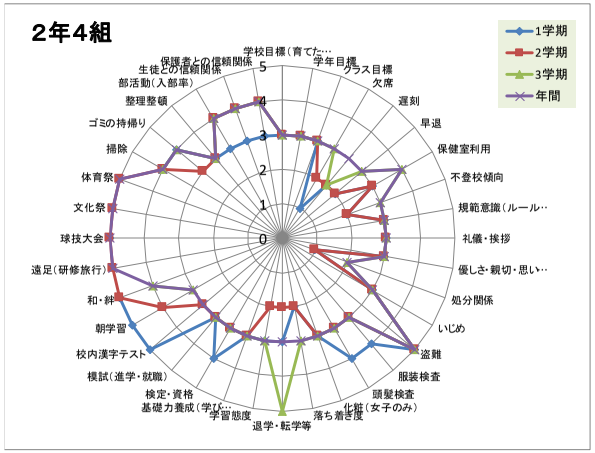
クラス目標	・1年生でできたことの継続 ・3年生に向けた成長 ・楽しむために全力で取り組む



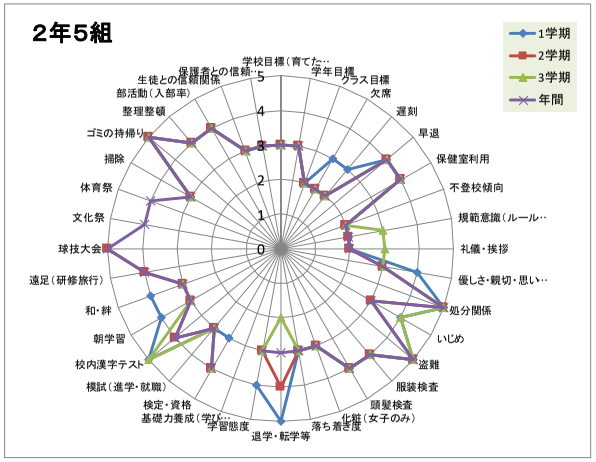
クラス目標	進路の目標を明確にする1年。 ～そのために「自分」のことを知ろう～



クラス目標	ひとつひとつのことを丁寧にやる

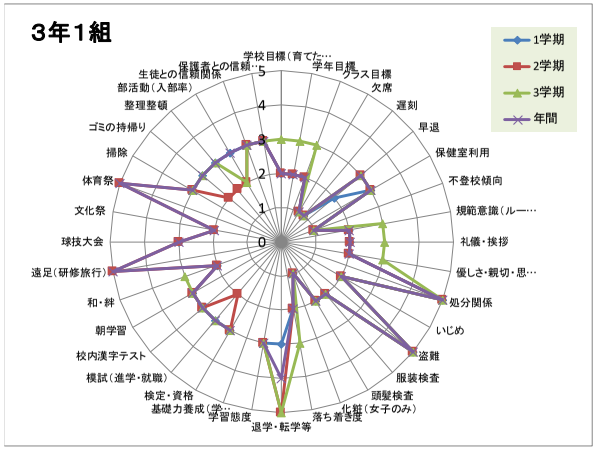


クラス目標	①楽しむ時は全力で楽しむ！ ②やらなければならない時は集中して取り組む！ ③何事にも積極的にチャレンジ！

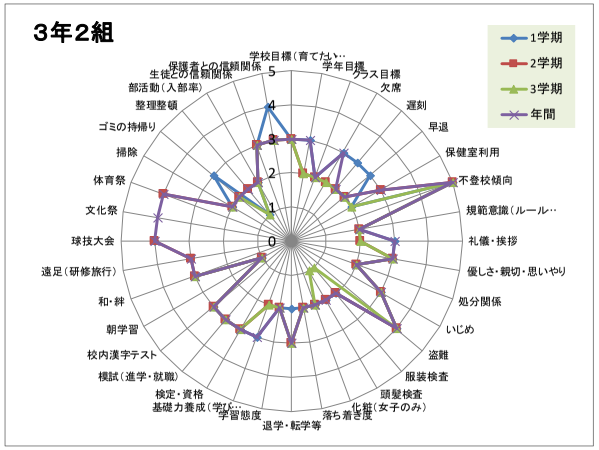


令和4年度　担任振り返りシート集計表（3年生）

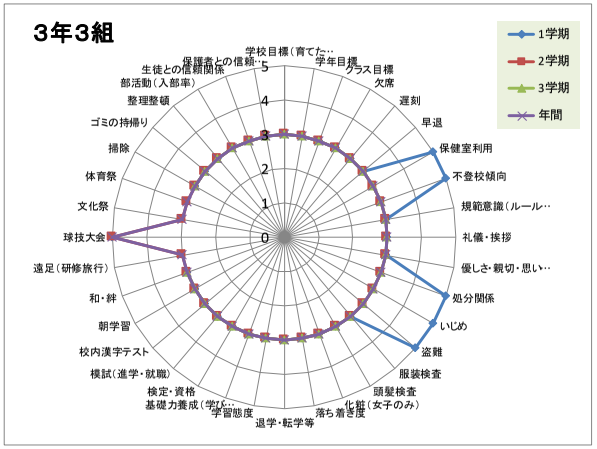
クラス目標	それでもなお



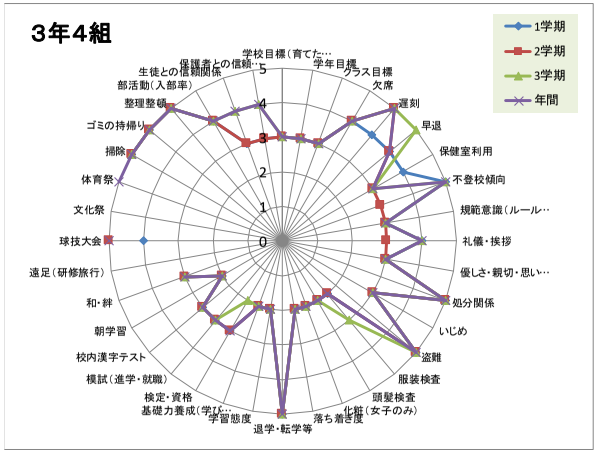
クラス目標	集中力を身につける



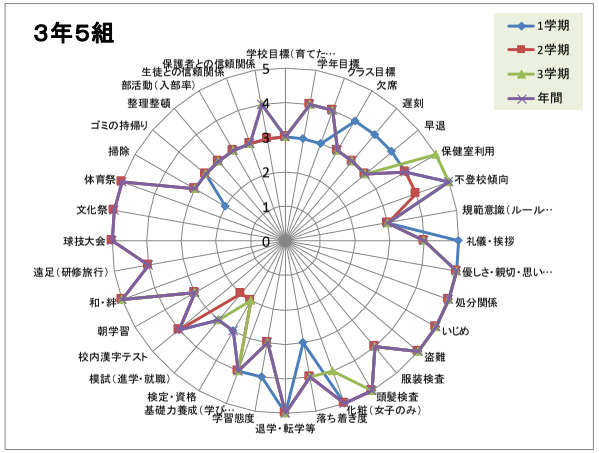
クラス目標	うつわ



クラス目標	覚悟（かくご）



クラス目標	「温故知新」



令和５年度

松江西高等学校

自己点検・自己評価（ＰＤＣＡ）

＜目標・計画＞

- 学校評価（重点課題・徹底したい取り組み等）
- 分掌部評価（分掌部評価表）
- 学級評価（担任振返シート）
- 生徒自己評価（生徒指導部）

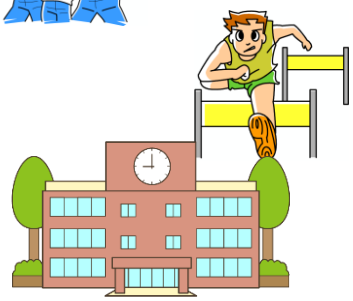
令和５年度　学校方針

松江西高等学校　重点目標

重点課題

（令和６年度実施に向けて）

目の前にいる生徒に即した魅力あるカリキュラム・学科・コースの見直し



徹底したい取り組み

①育てたい生徒像／基礎・基本を身につけ、将来像をもった明るく活力ある生徒

■学習面（私は分かる）

・高校生のための学びの基礎診断
・基礎力養成、学び直し、語彙力養成（Literas 論理言語力検定）
・新しい授業のカタチ（2022 新指導要領実施準備）
　アクティブラーニング、反転授業等の実践とその評価
　ネット学習動画（スタディーサプリ等の活用）

■生活面（私は守る）

・慈にして厳なる指導
・いじめ防止対策（未然防止・早期発見とその対応）
・基本的生活習慣（時間・挨拶・マナー・規則順守）

■ＣＣＰ教育（私は決める）

・総合探求学習・ＬＨＲを活用して２年までに進路の方向性を決定する
・将来像を持たせることで、日々の学習のモチベーション向上につなげる

■部活動、行事の重要性（私は参加する）

・部活動、行事を通して明るさと活力を身につける

②その他

・地方創生への取り組み／外部（行政・企業・大学・専門学校など）との連携強化
・支援生徒への取り組み／特別支援、不登校支援・外国籍生徒支援
・学校評価を通して学校運営の改善に努める

私学の原理・原則

①経営基盤（生徒数の確保と維持）の確立の上に理想があり、教育がある！

②生徒を大切にし、面倒見のいい私学は生き残る！

③魅力、特色が形骸化し、工夫のない私学は生き残れない！

令和５年度　松江西高等学校　学校評価
＜重要課題＞

PLAN		DO	CHECK	ACTION
重点目標	重点項目	具体的な取り組み	達成度判定基準	分析（成果と課題）及び改善策
３つの生徒像	～どんな生徒を求めているか？～ ①これまでの義務教育を振り返り、これからの高校生活を充実させるための目標を持っている生徒 ②本校の教育テーマである「未見の我の発見」に向けて努力する生徒	①、②については入試説明会、中学校訪問等で伝える。特に①については専願生の面接項目に入れる。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（校長）
	～どんな生徒を育てたいか？～ ・育てたい生徒像である「基礎・基本を見につけ、将来像を持った明るく活力ある生徒」を育てる	基礎学力、基本的生活習慣、キャリア教育、部活動・学校行事を通して、社会人としての基盤をつくる。また学期ごとにアンケートを実施し、定着度を確認する。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（校長）
	～どんな社会人になってほしいか？～ ・ローカルマインドを持った地域社会に貢献できる生徒 （ローカルマインドとは、地域を知り、地域を愛する心のこと）	約七割の生徒が地元に残る現状を踏まえ、地域と連携、協力して地方創生に協働する人材を育てる。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（校長）
課題	魅力あるカリキュラム・学科・コースの見直し	目の前にいる生徒に即した魅力あるカリキュラム・学科・コースを構築する。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（校長）

＜徹底したい取り組み＞

PLAN			DO	CHECK	ACTION
重点目標	重点項目		具体的な取り組み	達成度判定基準	分析（成果と課題）及び改善策
育てたい生徒像／基礎・基本を身につけ、将来像をもった明るく活力ある生徒	基礎学力養成	高校生のための「学びの基礎診断」	年間１回（９月）実施することになった。本校にとって大きな指標にしたい。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（和田）
		基礎力養成対策	Ａ～Ｄ層のうちＤ層の減少を目標とする	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（和田）
		学び直し	ベネッセ教材を活用し中学校時の積み残しを学び直し、高校教育課程へつなげる。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（和田）
		語彙力養成	本校の生徒に合った題材を準備し、楽しく語彙力が身に付くように工夫し、Literas 論理言語力検定の合格者を増やす。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（広瀬）
	新しい授業のかたち	アクティブラーニング等による「生徒参加型授業」の取り組み	「知識・技能」の習得からその活用へ重点をシフトし、生徒を主体とする授業の形成に努める。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（和田）

	ＩＣＴ等の活用	基礎学力基盤養成	ベネッセのクラッシー学習サポート（動画学習）の活用による基礎学力の定着に努める。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（和田）
		進学するための学力養成	リクルートのスタディーサプリの活用による実力養成に努める。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（広瀬）
		就職するための学力養成	ＳＰＩの活用による就職試験に合格できる学力の養成に努める。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（加藤）
	検定その他	朝読書の推進	8:30～8:40 朝読書（月、金）を実施する。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（須谷）
		校内漢字テスト	年６回の漢字テスト、３回の漢字検定を実施する。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（小澤）
		各種検定資格取得	＜総合ビジネス科＞ 簿記、情報、ワープロ、電卓、介護職員初任者研修（旧ホームヘルパー２級）等の資格取得に努める。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	全商簿記 全商電卓 全商ビジネス文書 全商情報処理 介護職員初任者研修 （加納）
			＜普通科＞ 漢検・英検・論理言語力検定等の資格取得に努める。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	全商英検 実用英検 （須谷） 漢字検定 （小澤） Literas 論理言語力検定 （広瀬） 数学検定 （和田）
	基本的生活習慣と生徒指導	社会性の育成	社会規範を示し、将来社会人として自立するための基本を身につけさせる。校内外パトロールを通して本校生徒の実態を把握し、正しい方向に導く。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（杉田）
		服装・頭髪	月１回全校一斉検査を実施し、改善まで徹底指導する。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（杉田）
		挨拶	全職員による日頃の地道な指導が大切。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（杉田）
		マナー	根負けしない教職員の指導が大切。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（杉田）
		いじめ問題	いじめは未然防止に尽きる。日頃からの全職員による観察が肝要である。いじめは絶対許さない姿勢を日々示す。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（杉田）
	将来像	探究・キャリア教育	探究活動に取り組むことで、自分自身をより理解し、学びに向かう力を育む。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	＜１年＞ （日野）
				Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	＜２年＞ （和田）
				Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	＜３年＞ （田中）
		進路ガイダンス	進学に関するガイダンス	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（加藤）
			就職に関するガイダンス	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（加藤）

		職場見学、職場体験等の活用による離職対策	安易な職業選択による離職率は増加の傾向にある。職場見学、職場実習の機会を増やすなど、離職率減少対策に努める。	A　B　C　D	（加藤）
	明るく活力	行事を大切にする	師弟が結束して行事に取り組み、行事を通してクラス、学年の帰属意識を高める。	A　B　C　D	（坂田教頭）
		部活動に入る／入部率向上	入部率７０％をめざす。	A　B　C　D	（坂田教頭）
		特待生の積極的な勧誘で学校活性化に努める。	部活動をけん引する特待生の確保に専念する。 （目標３０名）	A　B　C　D	（坂田教頭）

＜継続して取り組む課題＞

PLAN			DO	CHECK	ACTION
重点目標	重点項目		具体的な取り組み	達成度判定基準	分析（成果と課題）及び改善策
①生徒数の確保	入学生定員１７６名確保		本校の取り組み・魅力を積極的にＰＲ。中学校訪問回数を増やす。	A　B　C　D	（客野教頭）
	志願者数７００名		多様化する生徒に対応した本校の受験型と特待制度の浸透に努める。	A　B　C　D	（客野教頭）
	マスコミ・メディアの活用		本校の行事等をマスコミに積極的に報道依頼する。	A　B　C　D	（客野教頭）
	効果的なイベント		本校に興味・関心が向くようなイベントを工夫する。	A　B　C　D	（客野教頭）
	入試の改善		改善すべき点、新しく導入すべき点等を検討する。	A　B　C　D	（客野教頭）
	塾対応		塾への訪問回数を増やし、本校の PR に努める。	A　B　C　D	（客野教頭）
②生徒数の維持	退学１０名、転出１０名、計２０名までに留める		日頃の出欠状況に注視し、安易な退学、転出の予防に努める。	A　B　C　D	（校長）
③その他	支援生徒への対応	不登校の問題	中学校、支援組織等からの情報を収集し、保護者との協力のもと不登校の改善に努める。	A　B　C　D	（小田原）
		特別支援生徒	実態をまず把握し、中学校、支援団体等からの助言を得ながら、連携して合理的配慮に努める。	A　B　C　D	（小田原）

		外国籍生徒学習支援	同時通訳機や日本語指導員等を活用し、言葉の壁を軽減したい。学習評価も合理的配慮が必要な場合はその都度検討する。	A　B　C　D	（広瀬）
		合理的配慮	保護者、担任等からの申し出を受け、その都度、検討し、生徒の困り感を軽減する。	A　B　C　D	（坂田教頭）
	地方創生	ふるさと教育の実践	ふるさとを知り、ふるさとを愛する人材の育成に努める。	A　B　C　D	（校長）
		地域に貢献する人材の育成	地域に根差し、地域を支える人材の育成に努める。	A　B　C　D	（校長）
		自治会等の連携活動	自治会との連携を密にし、お互いに助け合う関係を築きたい。	A　B　C　D	（校長）
	学校評価の推進と学校運営の改善	学校評価	学校の年間重点目標と戦略をＰＤＣＡを通して、全体評価する。	A　B　C　D	（客野教頭）
		分掌部評価表	各学期末、年度末に自己点検・自己評価を実施する。	A　B　C　D	（客野教頭）
		担任振返りシート	各学期末、年度末に自己点検・自己評価を実施する。	A　B　C　D	（客野教頭）
		クラス努力目標	努力目標をクラスに掲示し、振返りシートで反省、改善に努める。	A　B　C　D	（客野教頭）
		生徒自己点検	各学期末、年度末に自己点検・自己評価を実施する。	A　B　C　D	（客野教頭）
		学習指導計画	年度末に自己点検・自己評価を実施する。	A　B　C　D	（坂田教頭）
		授業評価	Classi によるアンケート調査を実施する。	A　B　C　D	（和田）

＜集計＞

評価項目 （５１）	Ａ／？	Ｂ／？	Ｃ／？	Ｄ／？

令和５年度　松江西高等学校分掌部年間目標と計画

１．教育理念

（１）本校の使命（ミッション）

建学の精神である「真に社会に役立つ実践的人材の育成」を使命とする。基礎・基本を身につけ、人格の形成に主眼を置いた教育実践を通して、地域に根差し、地域の期待に応える学校づくりを推進する。

（２）使命の追求を通して実現しようとする本校の生徒像（ビジョン）

本校の育てたい生徒像である「基礎・基本を身につけ、将来像を持った明るく活力ある生徒」具現化のための重要ポイント

１．基礎力養成補習、学び直し、語彙力養成を通して基礎学力を養成させる
２．平素の学校生活を通して正しい服装と礼儀・挨拶を習得させる
３．ＣＣＰ教育、インターンシップを通して将来像を持たせる
４．部活動、学校行事を通して明るさと活力を身につけさせる

２．分掌部年間目標・計画・評価　　評価　１　よくできなかった／　２　まずまずだった／　３　大変よくできた

分掌	担当	年間重点目標		目標達成のための計画	評価（1学期）	評価（2学期）	評価（3学期）	評価（学年）
総務部	入試課	①受験者数・入学者数の確保	①体験入学参加者 200 名の確保（昨年 166、内授業 115、部活 51）	・松江西高タイムス・学校案内発行 ・学校紹介ビデオ・パワーポイント作成 ・中学校における進路説明の会実施 ・体験入学の実施 ・中学校教員対象入試説明会の実施 ・中学生・保護者対象入試説明会の実施				
			②中学生・保護者対象入試説明会参加者 450 名の確保（昨年 343 名）					
			③受験者数 700 名の確保（昨年 628 名）					
			④入学者 150 名の確保（昨年 130 名）					
	総務課	②円滑な学校運営		・年間行事計画作成・調整 ・職員会議企画・運営、会議録の作成・資料保管 ・学校要覧、職員名簿・緊急連絡網・身分証明書等の作成 ・100 周年資料の収集・整理・保管				
	式典総務入試課			・入学式、卒業式、始・終業式等の企画・実施				
				・入学試験の企画・実施、入試関係事務処理				
				・専願合格者入学前指導、新入生一日入学企画・実施				
	厚生課			・学校生協関係の連絡・事務 ・慶弔に関する庶務				
	施設課	③施設・設備の管理・保全		・校舎・施設、机・椅子等の破損調査・整備 ・校舎内外の環境整備・美化				
	総務課施設課	④防災体制の確立		・防災組織の整備、研修・訓練の実施と検証 ・防災教育の企画・実施 ・緊急時一斉メール配信システムの整備・管理 ・防災設備の点検・整備				
	総務課	⑤学校広報の推進		・西高だより（年2回）・「がんばれ西高！」（随時）発行 ・学校ホームページ更新				

教務部	教務課	①授業の管理、授業時数の確保	・特定の教員に負担が掛かり過ぎないような授業変更基本ルールの共有				
			・時間短縮等で学校行事等とのバランスをとる。				
		②ポートフォリオの確実な蓄積（提出率90%）	・各学期末のみ用紙で実施し、保管する。				
		③新課程への対応（観点別評価システム作成・分析）	・観点別評価システムへの意見を年度末に集約する。				
	学習指導課	④基礎学力の向上(3年生でD3層30名以下)	・目標設定・事前学習(補習)・振り返りのサイクルができるように働きかける				
		⑤Literasの検定合格者の増加（1級 3名以上、2級 30名以上、3級 受験者の80%以上）	・事前課題の活用計画を明確にする。				
	研修課	⑥教員のスキルアップ	・公開授業などの相談や意見交換の機会を設定				
		⑦学校全体での研修会の実施	・目的を明確にした研修会の計画				
	授業改善課	⑧各学期の授業アンケートの実施（提出率90%以上）	・Classiによる授業アンケートの配信をする。				
		⑨総合探求の有効活用	・各学年で具体的なカリキュラム計画を作成する。				
			・定期的な学年部会などで計画の意図を共有する。				
	図書課	⑩読書週間の有効活用	・教室用図書の準備、LHRで読み聞かせ等を実施				
生徒指導部	生徒指導課	①あいさつの充実	・定期的に部活動（生徒会）単位で挨拶運動を実施する。				
		②正しく制服を着る	・服装頭髪検査の実施（月1回を基本） 新制服の決定 ・ネクタイ・リボンの貸し出しを生徒指導で統一する。				
		③時間を守る	・「ノーチャイム運動」＋遅刻指導 遅刻率→３%以下				
		④掃除の励行	・保健部や生徒会と連携する。				
		⑤校則（各種規定・ルール）の見直し	・校内での議論を推進（特に携帯に関する規定など）				
		⑥生徒指導体制の見直しと連携強化	・「脱・モグラたたき！」で懲戒件数を 10件未満に減少				
		⑦学校（教職員）の防犯意識を高める	・不審者（危険人物）への対応・教職員の訓練を計画する。				
	交通指導課	⑧法令順守の精神を養う	・警察や地域との情報共有を密にする。啓発活動の活性化				
		⑨交通事故を防ぎ、生徒の命を守る	・ヘルメット着用の意義を広める。交通事故をゼロへ！				
		⑩自転車のマナーアップと盗難防止	・自転車の降車エリア（校内）の設定→看板の設置へ ・施錠指導とステッカーの貼付指導 警察の交通安全講習				
	生徒会課	⑪学園祭の充実	・企画・運営・準備段階で生徒指導部が関わる。				
		⑫「生徒が当事者意識をもって学校の未来を考える。」	・学校生活をより良くするために生徒同士が指摘し合う行為を増やしていく。「校内放送」「新しい委員会」など				
	人権同和課	⑬人権尊重と差別のない学校作り	・講演会「命の大切さ」の実施 ・いじめアンケートの実施（活用）				
		⑭生徒相互の人間関係の構築	・アンケートQUの実施　各学年部・担任と連携を強化する。				

進路指導部	職業指導課	①生徒の進路保障 ・学校斡旋による地元就職への内定率の向上を目指す。 （就職ミスマッチの減少） （学校斡旋内定率 100%） ・公務員希望者への対応 ・縁故就職者への支援 （ビジネスマナーの定着）	・面談を重ねることにより、それぞれの適性に応じた指導を目指す。 ・基本的生活習慣や学力を身につける ・遅刻・欠席の多い生徒や意欲のない生徒への対応 ・ハローワークや関係諸機関との連携を強化 ・早期離職を防ぐためにジョブフェアや応募前見学等を活用する。 ・夏季補習や採用試験に対応できる対策をとる。（作文・SPI検査など）				
		②社会人としての素養を高める ・キャリア教育の実施。 ・社会人基礎力を育てる。 「遅刻・欠席をしない」 「挨拶をする」 「コミュニケーション力」	・校内での挨拶・言葉の使い方・服装頭髪 ・外部講師による講話やマナー指導実施 ・面接指導を通して、社会人としてのマナーを身につけさせる。また、自分の意見を相手にきちんと伝えられるようにする。				
		③応募前見学、企業ガイダンスの実施 ・県、市、ハローワークと連携	・求人票だけでなく、ガイダンス・職場体験を通して、実際の仕事や職場の状況を知り、職場選択の取り組みを促す。 ・就職先の新規開拓をする。				
		④インターンシップの実施 ・2 年生の 10 月～11 月実施	・インターンシップの実施により、上記にある社会人としての素養を高め、「卒業後は社会人になる」という意識を学年全体・学校全体で持つようにする。				
	進学指導課	⑤進路選択の幅を広げる	定期的な進路ガイダンス、適性検査の活用				
		⑥計画的な進路決定をさせる	保護者向け費用説明会、早期からの個人・三者面談の実施				
		⑦学科を問わず、四年生大学・短期大学への進学者を一定数だす（進学者の 20～30%） ⑧国立大学・私立難関大学への合格者を一定数出す（四年生大学進学者の 10%）	・進学希望者対象補習を一般選抜も視野に入れて早期より計画的に行う。 ・総合型・学校推薦選抜に向けた小論文対策として 6 月に添削模試を行う。 ・大学、短大、専門学校との連携の強化・拡大を図る。 ・模試を有効に活用（特に、復習と学習方法の検討）する。				
		⑨スタディサプリの有効活用 ・特別進学コースにおいて、家庭学習を定着させて受験の基盤となる学力を身につけさせる。 （週末課題提出率 100%）	・週末課題→週明けチェックテスト→復習の流れで家庭学 習のきっかけを作る。 ・到達度テストの結果から個別の学習計画を各自で作成する。				
保健部	保健課	①環境美化の推進	・ゴミ処理の円滑化 ・清掃活動				
		②健康管理の徹底	・生活改善(食事・睡眠・スマホ)に向けた指導 ・健康観察、調査票などからの情報収集により、心身の問題の早期発見、早期対応を図る。				
		③各諸問題に関わる研修	・時代に対応した各種研修会(情報提供)を実施				
		④保健部に関する各種統計	・保健室利用者及び疾病の種類の把握 ・利用者数の把握、各検査健診結果統計				
学年部	1 年部	①基礎学力の定着・向上	生徒から目を背けずに関わり続ける学年に ①生徒情報の共有 ②先（進路）を見据えた指導 ③ぶれない指導				
		②基本的生活習慣の確立					
		③他者尊重の心を養う					
		④出席率 95%以上に（具体的数値目標）	・担任と教科担当とのコミュニケーションを大切にする ・担任の個性を生かしたクラスづくりをするとともに、いじめや無視など、日々の生徒の変化に迅速に対応する				

学年部	1年部	⑤転退学者を 5%以下に（具体的数値目標）	・保護者への電話連絡や家庭訪問を必要に応じて行う ・各委員会の長との連絡を密にし、生徒の情報を共有する				
		⑥遅刻率を 5%以下に（具体的数値目標）	・始業のチャイムと共に行動させる ・HR を通じて、基本的生活習慣を身につけることの大切さ、その行動が進路決定に影響するということを理解させる				
		⑦部活動入部率を 70%に（具体的数値目標）	・部活動や全ての学校行事等にポジティブに挑むとともに、協調性を身につけ、その大切さを学ばせる				
	2年部	①基本的生活習慣の確立 ・遅刻率 3%以下(昨年度 2.3%) ・出席率 95%以上(昨年度 94.1%)	・遅刻指導と家庭連絡を徹底する ・教員からの明るい挨拶の意識を持つ				
		②基礎学力の向上と学習習慣の涵養 ・基礎力診断テスト D3-層 25%以下 (昨年度 1 月 35.1%) ・到達度テスト正答率 55%以上 (昨年度 1 月 52.3%)	・普段の授業で主体的に学習に取り組む態度(特に集中力)を身に付けさせる ・事前課題提出と補習への出席を徹底する ・目標→計画→テスト→改善のサイクルを確立させる				
		③多様な他者との集団活動の意義やコミュニケーションについての理解 ・研修旅行好意的評価 90%以上 ・QU 学級生活不満足群 15%以下 (昨年度 7 月 17.1%)	・まずは研修旅行までのクラス活動や学校行事で自分の役割を考えさせる(面談等) ・HR でルール(法律、条令、校則等)を守る価値を考える ・定期的(各学期 1 回以上)な面談を実施する ・担任以外がそのクラスを褒める機会を作る				
		④進路のビジョン化 ・探究活動と小論文学習の充実 ・進路調査未定者 3 名以下	・Chromebook を活用する ・進路ガイダンスの振り返りを徹底する ・2 学期中(研修旅行後)に 1 回進路調査を行う				
	3年部	①基本的生活習慣の確立	・遅刻・欠席をしない ・礼儀を身につける（挨拶・言葉遣い・返事） ・時間を守る				
		②基礎学力の向上・定着	・授業を受ける体制を整える ・テストに全力を尽くす				
		③未見の我の発見	・部活動・学校行事への積極的な参加 ・相手を尊重した行動や言動をとり、対人関係を円滑に築く				
		④進路のビジョン化	・進路選択能力の育成 ・各種検定等の資格を取得する				
		⑤１32名全員の卒業を達成（具体的数値目標）	・基本的生活習慣を身につけることの大切さを理解させる。 ・始業のチャイムとともに行動させる。 ・保護者への電話連絡や家庭訪問を適時行う。 ・部活動や学校行事を通じて協調性を身につけ、達成感や自己肯定感を味あわせる。 ・普段の授業を大切にさせ、授業に集中させる。 ・各種検定試験の３級以上の合格を目指し、学習意欲を高め、進路実現に結びつける。 ・履歴書指導・面接指導の充実を図る。				
		⑥出席率を 97%以上に（昨年度 94%）					
		⑦遅刻率を　2%以下（昨年度 3.3%）					
		⑧転退学者を 0 名に（昨年度 8 名）					
		⑨皆勤者を 30 名以上に（昨年度 21 名）					
		⑩学期間奨学生の推薦者を 10 名以上に					
		⑪漢字テスト　平均点 70 点以上					
		⑫各種検定試験　３級以上合格					
		⑬国公立大学（短大）進学者を 3 名以上に					
		⑭学校斡旋による就職合格を１００%に（3 年以上の定着を目指して指導する）					

令和５年度　松江西高校　努力目標

建学の精神
真に社会に役立つ実践的人財の育成
教育テーマ
未見の我の発見
育てたい生徒像
基礎基本を身につけ、将来像をもった明るく活力のある生徒

第１学年努力目標

① 基礎学力の定着・向上。
② 基本的生活習慣の確立。
③ 他者尊重の心を養う。

クラス努力目標

１年１組（遠藤）　努力を忘れて努力する

１年２組（浅津）　「継続(けいぞく)」

１年３組（松浦）　高校３年間の基盤作りとなる１年にする
①（生活）「実現可能な目標の設定」→「達成」を繰り返す
②（学習）自分にあった学習方法の確立
③（総合）和（絆）を意識する

１年４組（小川）　習慣
自分でできる事を増やし習慣化する

第２学年努力目標

① 基本的生活習慣の確立
② 基礎学力の向上と学習習慣の涵養
③ 多様な他者との集団活動の意義や
　コミュニケーションについての理解
④ 進路のビジョン化

クラス努力目標

２年１組（田部）　　**元気**

２年２組（小澤）　　**変　　革**

２年３組（池上）　　**感**

２年４組（原田）　　**①やれることはちゃんとやる**
②携帯電話の利用を控える
③毎日あと少し頑張る
④教室をきれいに

第３学年努力目標

①基本的生活習慣の確立
（1）遅刻・欠席をしない
（2）礼儀を身につける
（3）時間を守る

②基礎学力の向上・定着
（1）授業を受ける体制を整える
（2）テストに全力を尽くす

③未見の我の発見
（1）部活動・学校行事への積極的な参加
（2）相手を尊重した行動や言動をとり、対人関係を円滑に築く

④進路のビジョン化
（1）進路選択能力の育成
（2）探求学習・小論文学習の充実
（3）各種検定等の資格を取得する

クラス努力目標

３年１組（加納）　　**子供から 大人へ**

３年２組（小豆澤）　**クラス３７人それぞれが**
納得できる進路を実現する

３年３組（吉原）　　**できっこないを やらなくちゃ**

３年５組（広瀬）　　Borderless
～境界を無くそう～
～限界を超えよう～

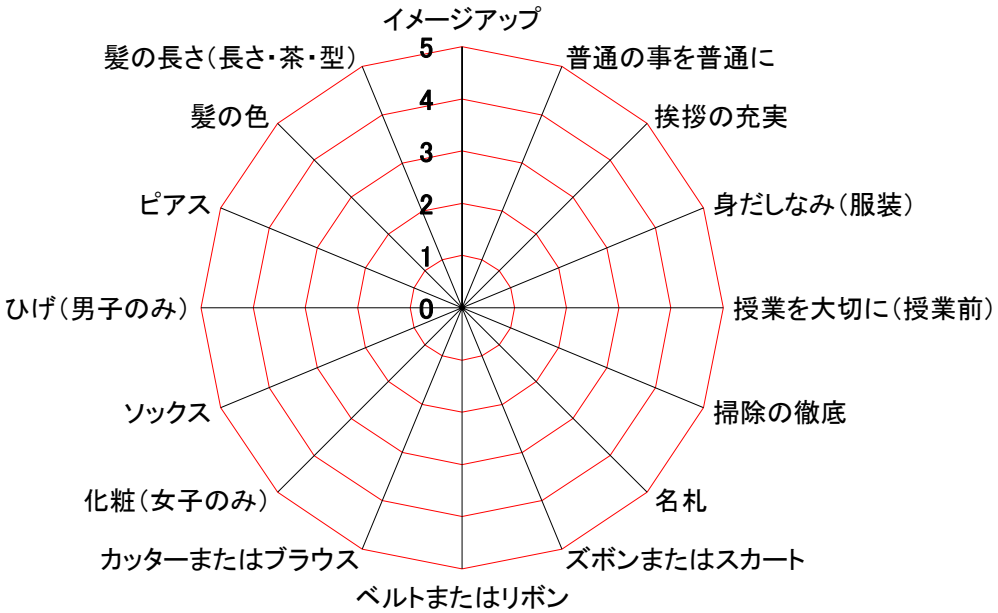
担任振り返りシート　（　　）年（　　）組　担任（　　）

クラス目標

	点検項目	１学期	２学期	３学期	年間
目標	学校目標				
	学年目標				
	クラス目標				
出欠	欠席				
	遅刻				
	早退				
	保健室利用				
	不登校傾向				
モラル	規範意識（ルール厳守等）				
	礼儀・挨拶				
	優しさ・親切・思いやり				
問題行動	処分関係				
	いじめ				
	盗難				
	服装検査				
	頭髪検査				
	化粧（女子のみ）				
	落ち着き度				
	退学・転学等				
学習	学習態度				
	基礎力養成（学び直し）				
	検定・資格				
	模試（進学・就職）				
	校内漢字テスト				
	朝読書				
帰属意識	和・絆				
	遠足（研修旅行）				
	球技大会				
	文化祭				
	体育祭				
環境	掃除				
	ゴミの持帰り				
	整理整頓				
その他	部活動（入部率）				
	生徒との信頼関係				
	保護者との信頼関係				

記入は５段階（５／優　４／良　３／普通　２／やや悪　１／悪　）でお願いします。

	記　　述　　欄
１学期	良かった点
	悪かった点
	その他（気づきがあれば書いてください）
２学期	良かった点
	悪かった点
	その他（気づきがあれば書いてください）
３学期	良かった点
	悪かった点
	その他（気づきがあれば書いてください）
年　間	良かった点
	悪かった点
	その他（気づきがあれば書いてください）

○年○組　生徒自己評価チェック（年間集計）					
	チェック項目	１学期 平均	２学期 平均	３学期 平均	年間平均
1	イメージアップ				
2	普通の事を普通に				
3	挨拶の充実				
4	身だしなみ（服装）				
5	授業を大切に（授業前）				
6	掃除の徹底				
7	名札				
8	ズボンまたはスカート				
9	ベルトまたはリボン				
10	カッターまたはブラウス				
11	化粧（女子のみ）				
12	ソックス				
13	ひげ（男子のみ）				
14	ピアス				
15	髪の色				
16	髪の長さ（長さ・茶・型）				
	集　計				

年間評価